

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650280211		
法人名	医療法人 真誠会		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字四ノ越3番		
自己評価作成日	平成22年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3650280211&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3650280211&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は旧吉野川河口の静かな場所に位置している。周囲には名産の鳴門金時等が栽培され、芋や大根の成長を身近に感じることができる。事業所内は家庭的な雰囲気やゆったりとした時間が流れ、利用者はのんびりと穏やかに暮らしている。利用者一人ひとりの生活歴を全職員が把握して個々の力に応じた役割を担ってもらい活躍の場を設けている。地域の小学生の下校時には、安全を守るためにこども安全パトロールを実施している。また、地区老人会定例会や清掃活動、保育園運動会、クリスマス会、節分会などの行事や自治会の花植え活動など地域活動に参加して地域との関係を深めている。医療連携体制を整備し、医師や看護師に日ごろから報告や相談を行い、緊急時に備えて対応している。事業所の全職員は普通救命講習を修了し、医療従事者との連携に備えている。介護福祉士の資格を取得している職員が7名おり、専門性の高いケアを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は温かな雰囲気や、利用者は穏やかな表情で落ち着いて過ごしている。全職員が理念を共有し、意識して利用者主体のケアを実践している。地域の一員として、日ごろから積極的に地域の方と交流している。地域の子どもの来訪があり、利用者にとって楽しみなものとなっている。「重度化にかかる方針」を策定したり、医療連携体制を整備し、利用者や家族が安心して生活できるように支援している。職員は利用者の笑顔や反応に喜びを感じ、生き生きと働いている。職員研修の体制を整備し、学習する機会を設けている。管理者は振り返りを行い、サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で理念を唱和して全職員が地域密着型サービスの意義を理解できるよう努めている。地域生活の継続支援や、事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	利用者一人ひとりが安心して、その人らしい生活が継続できるよう、全職員で理念を共有して意識を高めている。日ごろから一人ひとりの思いを汲み取るよう配慮しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所や小学校、老人会、自治会等の行事に参加している。地域の小学1年生の下校時に安全を守るために、こども安全パトロールを実施している。地域の清掃活動や花植え活動、保育所の運動会に参加し、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	日ごろから地域との交流に積極的に取り組んでいる。保育園児が散歩途中に立ち寄りすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに会議や研修会に参加して認知症ケアについての啓発に努めている。高校生や社会人の実習生を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の課題や事例を紹介している。参加者から意見や提案を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。	事業所の取り組み内容や認知症について説明し、地域の理解や支援が得られるよう参加者に働きかけている。具体的な改善課題を話し合い、参加者から意見を出してもらってサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の介護相談員事業を受け入れ、相談員から提案してもらっている。年2回、介護相談員報告会があり、市担当者も交えてケアについて話し合う機会を設けている。	月2回、市の介護相談員の来訪がある。利用者と話したり気づいたことを指摘してもらってサービスの質の向上につながるよう、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室には鍵をかけず、自由に入出りができるようにしている。職員の行為が利用者の行動を制限していないか点検し、事業所での自由な暮らしを支えるようにしている。	外出しそうな気配を察知したら、さりげない声かけや一緒について行くなど、職員は見守りを行いながら、利用者の行動を抑制しないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を職員に回覧し、理解浸透を図り遵守に取り組んでいる。一つひとつのケアが虐待行為にならないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業について資料やパンフレットを活用し、理解を深めている。対応が必要と思われる利用者には、概要を紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約内容や重要事項について時間をとって説明し、同意を得ている。重度化した場合の指針や見取りケアについても説明している。各加算についても説明のうえ同意書もらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所内に2か所設置している意見箱を利用してもらい、家族が自由に意見を表せる機会を設けている。月2回、介護相談員を受け入れ、気楽に話ができるように努めている。	意見箱を設置している。家族から直接意見や要望を出してもらえるように配慮している。出された意見や苦情を積極的に受けとめ、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は事業所を来訪し、職員の思いや希望をくみ取れるように日ごろからコミュニケーションを図っている。年3回、気軽な雰囲気話ができる場を設けて職員のリフレッシュを図っている。	代表者や管理者は職員から意見や情報を聞き、運営に活かせるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所を来訪し、利用者とともに過ごしたり職員の思いに寄りそってよりよい労働環境づくりに努めている。また、日本グループホーム協会理事として介護職の待遇改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年24回、定期学術勉強会を開催し、取り組み成果を題材に、各部署の職員が講師となって講義を行い、サービスの質の向上につなげている。外部の研修会にも多くの職員が参加できるように計画し、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、管理者研修会や相互評価事業に参加している。同業者との交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、同意のうえで自宅を訪問し、在宅時の生活状態等の把握に努めている。また、法人内の他サービス事業所の利用歴のある方には、担当者と連携して本人の現況を把握し、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の暮らしや今までのサービス利用歴の把握に努めている。家族の思いやニーズ、要望に耳を傾けながらケアにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、自宅を訪問したり事業所に来訪してもらっている。相談の機会を通して本人や家族の思いや要望に耳を傾け、サービスの導入に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、敬意を払うよう配慮している。本人が力を発揮できる場面を設け、職員が利用者から教えてもらう場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、利用者の日ごろの様子や思いを伝えている。本人をともに支えていくため家族と協力関係を築いている。事業所は、本人と家族の橋渡し役を担っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの地域資源との関係を大切にして、これまでの関係が途切れないように事業所への来訪をお願いしている。	馴染みのスーパーに買物に行ったり、入居前に仲の良かった友人に来訪をお願いするなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性や一人ひとりの特性を把握している。日ごろから個別に話を聞いたり語らう機会を設け、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居して新しい生活環境に移った場合はこれまでの関係から得た情報を提供し、転居先で馴染みの関係を再構築できるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで、本人の言葉や表情、しぐさなどから利用者の真意や意図を推し測っている。	日ごろから利用者の様子を観察し、コミュニケーションを密に取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握し、敬意を払いながら大切にしてきたエピソードを活かし、本人のもつ力を発揮できるような場面づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴を把握し、全職員が共有している。利用者一人ひとりの日ごろの様子から全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで利用者の意向を把握している。家族の来訪時に要望を聞いたうえでアセスメントやモニタリングを行っている。設定した期間はもとより変化に応じて見直している。	アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、利用者主体の介護計画を作成している。現状に即して見直し、臨機応変な対応ができる計画をつくっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事・水分摂取量、排泄などの身体状況を記録している。また、暮らしの様子や言動、意図、エピソードも記載している。全職員は就業前に記録を確認し、情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、都合に合わせて医療機関への送迎を行っている。また、馴染みの場所や買物等の外出を支援し、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、保育所や小学校、地区老人会、自治会と連携している。運営推進会議の参加者と連携を密にとり、情報交換や協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって利用前からのかかりつけ医を受診できるように通院助助を行い、継続して適切な医療が受けられるよう配慮している。かかりつけ医と情報交換を行い、関係を密に結んでいる。	入居者の多くは、利用前から母体法人の医療機関をかかりつけ医としている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。受診結果を家族に報告し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整備している。看護師と日ごろから利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができるよう関係を築いている。体調に変化があった時は連携記録を備え、適切な医療を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮し早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図って、やすらかに納得した最期を迎えられるように努めている。「重度化にかかる指針」を策定して、契約前には内容を説明して同意してもらっている。	「重度化にかかる指針」を策定し、重度化した場合や終末期に向けて体制を整えている。本人や家族の意向を踏まえ、医師や職員は情報を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を修了して、心肺蘇生法や人工呼吸法を習得している。また、医療機関へ正確かつ迅速な情報提供が行えるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の配置と消防計画を消防署へ届けている。年2回、避難訓練や消火訓練を実施して火災に備えている。また、運営推進会議に地元消防団員に参加してもらい、火災やその他災害に対する協力をお願いしている。	マニュアルを作成している。年2回、利用者と一緒に火災を想定した避難訓練を実施している。併設事業所と連携を密にとり、協力体制を築いている。運営推進会議でも地域の方に協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、人権を気遣う心を持って利用者を主役に考え、介護される立場にたったケアを実践している。また、情報漏洩には厳格に対処し、守秘義務の遵守に努めている。	利用者の生活歴を重視し、全職員が把握している。個人情報の個別性や守秘義務についても十分に理解している。利用者の尊厳や権利を守るために、一人ひとりに合った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や視線、しぐさ、態度等から意向の把握に努め、自己決定の場面や本人の意図の実現に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先するのではなく、本人の生活リズムやペースを尊重し、希望や意図にそった暮らし方を大切にしている。日ごろの過ごし方を自分で決定できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣やみだしなみ、持ち物等、利用者のこだわりや好みを尊重し、本人が選んだ服や髪型を整えられるように支援している。希望に応じて、女性の化粧の支援を行っている。定期的美容師が来訪し、利用者の希望にそったカットやセットをもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が立てたバランスのよい献立を基本として、利用者の希望をメニューに取り入れている。献立に応じた食材を買いに出かけたり調理や盛り付けを職員と一緒に、食事が楽しみになるよう工夫を重ねている。	毎日、食材の買い物に利用者も一緒に行ったり事業所の畑で育てた野菜を使った料理を作っている。調理や盛り付け、後片付けを手伝ってもらい、一人ひとりの力を活かしながら食事が楽しみなものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、カロリーの過不足に考慮したバランスのよい食事を提供している。体調や体重変化の観察をとおして、健全な食生活に配慮している。毎日3食の食事摂取量を記録して、少ない場合は医師の指示により高カロリー飲料を飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員は、口腔ケアが生活の質の向上に必要であることを理解している。毎食後の義歯の手入れや洗浄の支援を、職員の重要義務として位置付け、利用者の能力に応じて見守りやケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや自尊心を傷つけないよう、さりげない誘導を行いトイレでの排泄を大切にしている。また、チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄のサインを把握し、利用者の様子を見ながらさりげなく誘導するなど、トイレでの排泄ができるように支援している。失敗しても、できるだけ排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある利用者には水分補給を勧めている。また、散歩や体操など、適度な運動を促して便秘対策に取り組んでいる。チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、下剤や軟化剤の使用をできるだけ習慣化しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯を設定せず、利用者の希望に応じて入浴できるように支援している。入浴時に同性介助を希望する利用者配慮するなど、プライバシーの保護や自尊心を傷つけないように支援している。	一人ひとりの希望にそった入浴支援を心がけ、工夫しながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れるように、日中の活動を促して生活リズムの調整に努めている。寝つけない利用者には、話に耳を傾けたりお茶を出すなど、安心してもらえるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の使用薬剤一覧表を作成し、利用者一人ひとりの薬の効能や副作用について把握し、家族とも情報を共有している。また、医師と相談してオブラートに包んだり潰し状態に加工して、服用しやすいように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や買い物、野菜作り、キーボード演奏等、利用者の持つ力を発揮できるような機会や場面をつくっている。役割を担ってもらうことで、やりがいや生きがいにつながり、気分転換や楽しみごとになっている。地域の小学1年生の下校時のこども安全パトロールは、生活に張りをもたらしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や阿波踊り見物、いちご狩り等に出かけている。釣りや野球観戦など利用者の希望にそった場所や行事に出かける等、外出が楽しめるよう支援している。	毎日の買い物に出かけられる利用者は少ない。散歩に出かけたり戸外で過ごす機会を設け、外気にふれられるよう配慮している。歩行困難なケースでも車椅子を利用するなど、個別に対応している。家族に協力をお願いするなど工夫しながら外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を所持している利用者もいる。買い物時には、利用者の好みの品を買い、自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や職員の提案により電話をかけたり手紙の送付を支援し、家族や友人、知人など親しい方との関係が途切れないよう配慮している。毎年の年賀状は家族に大変喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の五感への影響や利用者同士の相性に配慮している。また、使いやすさやわかりやすさに配慮して、大きめの表示やマークを掲示して安心して過ごせるような工夫をしている。事業所内に四季折々の小物や植物を栽培し、リラックスできる環境をつくっている。	事業所で植物を栽培し、水遣りや野菜作りを自分の役割と捉えて積極的に取り組む利用者がいる。緑に囲まれた空間で居心地の良さや心身の活力を引き出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関先にベンチを設置している。庭にはテーブルと椅子を配置して、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士がくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこだわりや愛着、馴染みの品など、一人ひとりの価値観を尊重している。利用者や家族と話し合い、家具や写真、楽器、寝具を持ち込んでもらっている。	使い慣れた鏡台や筆筒、オルガンなど馴染みの品を持ち込んでいる。家族に協力してもらい、写真を飾ったり、利用者の意向を確認しながら居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能を考慮した手摺りや取っ手、無段差、照明、案内表示、家具等が配置されている。見守りや声かけを行い、利用者の不安や混乱を取り除き、自立支援につなげている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で理念を唱和して全職員が地域密着型サービスの意義を理解できるよう努めている。地域生活の継続支援や、事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育所や小学校、老人会、自治会等の行事に参加している。地域の小学1年生の下校時に安全を守るために、こども安全パトロールを実施している。地域の清掃活動や花植え活動、保育所の運動会に参加し、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに会議や研修会に参加して、認知症ケアについての啓発に努めている。高校生や社会人の実習生を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の課題や事例を紹介している。参加者から意見や提案を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護相談員事業を受け入れ、相談員から提案してもらっている。年2回、介護相談員報告会があり、市担当者も交えてケアについて話し合う機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室には鍵をかけず、自由に出入りができるようにしている。職員の行為が利用者の行動を制限していないか点検し、事業所での自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を職員に回覧し、理解浸透を図り遵守に取り組んでいる。一つひとつのケアが虐待行為にならないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業について資料やパンフレットを活用し、理解を深めている。対応が必要と思われる利用者には、概要を紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約内容や重要事項について時間をとって説明し、同意を得ている。重度化した場合の指針や見取りケアについても説明している。各加算についても説明のうえ同意書もらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所内に2か所設置している意見箱を利用してもらい、家族が自由に意見を出せる機会を設けている。月2回、介護相談員を受け入れ、気楽に話ができるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は事業所を来訪し、職員の思いや希望をくみ取れるように日ごろからコミュニケーションを図っている。年3回、気軽な雰囲気話ができる場を設けて、職員のリフレッシュを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻りに事業所を来訪し、利用者とともに過ごしたり職員の思いに寄りそってよりよい労働環境づくりに努めている。また、日本グループホーム協会理事として介護職の待遇改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年24回、定期学術勉強会を開催し、取り組み成果を題材に、各部署の職員が講師となって講義を行い、サービスの質の向上につなげている。外部の研修会にも多くの職員が参加できるように計画し、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、管理者研修会や相互評価事業に参加している。同業者との交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、同意のうえで自宅を訪問し、在宅時の生活状態等の把握に努めている。また、法人内の他サービス事業所の利用歴のある方には、担当者と連携して本人の現況を把握し、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の暮らしや今までのサービス利用歴の把握に努めている。家族の思いやニーズ、要望に耳を傾けながらケアにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、自宅を訪問したり事業所に来訪してもらっている。相談の機会を通して本人や家族の思いや要望に耳を傾け、サービスの導入に活かしている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、敬意を払うよう配慮している。本人が力を発揮できる場面を設け、職員が利用者から教えてもらう場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、利用者の日ごろの様子や思いを伝えている。本人をともに支えていくため家族と協力関係を築いている。事業所は、本人と家族の橋渡し役を担っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの地域資源との関係を大切に、これまでの関係が途切れないように事業所への来訪をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性や一人ひとりの特性を把握している。日ごろから個別に話を聞いたり語らう機会を設け、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居して新しい生活環境に移った場合は、これまでの関係から得た情報を提供し、転居先で馴染みの関係を再構築できるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで、本人の言葉や表情、しぐさなどから利用者の真意や意図を推し測っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握し、敬意を払いながら大切にしてきたエピソードを活かし、本人のもつ力を発揮できるような場面づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴を把握し、全職員が共有している。利用者一人ひとりの日ごろの様子から全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで利用者の意向を把握している。家族の来訪時に要望を聞いたうえでアセスメントやモニタリングを行っている。設定した期間はもとより変化に応じて見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事・水分摂取量、排泄などの身体状況を記録している。また、暮らしの様子や言動、意図、エピソードも記載している。全職員は就業前に記録を確認し、情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、都合に合わせて医療機関への送迎を行っている。また、馴染みの場所や買物等の外出を支援し、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、保育所や小学校、地区老人会、自治会と連携している。運営推進会議の参加者と連携を密にとり、情報交換や協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって利用前からのかかりつけ医を受診できるように通院介助を行い、継続して適切な医療が受けられるよう配慮している。かかりつけ医と情報交換を行い、関係を密に結んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整備している。看護師と日ごろから利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができるよう関係を築いている。体調に変化があった時は連携記録を備え、適切な医療を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮し早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図って、やすらかに納得した最期を迎えられるように努めている。「重度化にかかる指針」を策定して、契約前には内容を説明して同意してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を修了して、心肺蘇生法や人工呼吸法を習得している。また、医療機関へ正確かつ迅速な情報提供が行えるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の配置と消防計画を消防署へ届けられている。年2回、避難訓練や消火訓練を実施して火災に備えている。また、運営推進会議に地元消防団員に参加してもらい、火災やその他災害に対する協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、人権を気遣う心を持って利用者を主役に考え、介護される立場にたったケアを実践している。また、情報漏洩には厳格に対処し、守秘義務の遵守に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や視線、しぐさ、態度等から意向の把握に努め、自己決定の場面や本人の意図の実現に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先するのではなく、本人の生活リズムやペースを尊重し、希望や意図にそった暮らし方を大切にしている。日ごとの過ごし方を自分で決定できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣やみだしなみ、持ち物等、利用者のこだわりや好みを尊重し、本人が選んだ服や髪型を整えられるように支援している。希望に応じて、女性の化粧の支援を行っている。定期的に美容師が来訪し、利用者の希望にそったカットやセットをしてもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が立てたバランスのよい献立を基本として、利用者の希望をメニューに取り入れている。献立に応じた食材を買いに出かけたり調理や盛り付けを職員と一緒にし、食事が楽しみになるよう工夫を重ねている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、カロリーの過不足に考慮したバランスのよい食事を提供している。体調や体重変化の観察をとおして、健全な食生活に配慮している。毎日3食の食事摂取量を記録して、少ない場合は医師の指示により高カロリー飲料を飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員は、口腔ケアが生活の質の向上に必要であることを理解している。毎食後の義歯の手入れや洗浄の支援を、職員の重要義務として位置付け、利用者の能力に応じて見守りやケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや自尊心を傷つけないよう、さりげない誘導を行いトイレでの排泄を大切にしている。また、チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある利用者には水分補給を勧めている。また、散歩や体操など、適度な運動を促して便秘対策に取り組んでいる。チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、下剤や軟化剤の使用をできるだけ習慣化しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯を設定せず、利用者の希望に応じて入浴できるように支援している。入浴時に同性介助を希望する利用者に配慮するなど、プライバシーの保護や自尊心を傷つけないように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れるように、日中の活動を促して生活リズムの調整に努めている。寝つけない利用者には、話に耳を傾けたりお茶を出すなど、安心してもらえるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の使用薬剤一覧表を作成し、利用者一人ひとりの薬の効能や副作用について把握し、家族とも情報を共有している。また、医師と相談してオブラートに包んだり潰し状態に加工して、服用しやすいように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や買物、野菜作り、キーボード演奏等、利用者の持つ力を発揮できるような機会や場面をつくっている。役割を担ってもらうことで、やりがいや生きがいにつながり、気分転換や楽しみごとになっている。地域の小学1年生の下校時のこども安全パトロールは、生活に張りをもたらしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や阿波踊り見物、いちご狩り等に出かけている。釣りや野球観戦など利用者の希望にそった場所や行事に出かける等、外出が楽しめるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を所持している利用者もいる。買い物時には、利用者の好みの品を買い、自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や職員の提案により電話をかけたり手紙の送付を支援し、家族や友人、知人など親しい方との関係が途切れないよう配慮している。毎年の年賀状は家族に大変喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の五感への影響や利用者同士の相性に配慮している。また、使いやすさやわかりやすさに配慮して、大きめの表示やマークを掲示して安心して過ごせるような工夫をしている。事業所内に四季折々の小物や植物を栽培し、リラックスできる環境をつくっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関先にベンチを設置している。座敷のスペースや庭にテーブルと椅子を配置して、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士がくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこだわりや愛着、馴染みの品など、一人ひとりの価値観を尊重している。利用者や家族と話し合い、家具や写真、楽器、寝具を持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能を考慮した手摺りや取っ手、無段差、照明、案内表示、家具等が配置されている。見守りや声かけを行い、利用者の不安や混乱を取り除き、自立支援につなげている。		